

板 木

群馬県へき地教育研究資料第73集



「現存する板木」(みなかみ町)

令和7年3月

群馬県教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

「板木」とは、始業などの時刻を知らせるためにたたく板のこと

板 木

群馬県へき地教育研究資料第73集

序



へき地教育研究資料「板木」の歴史は古く、創刊は昭和27年に遡ります。この年は、群馬県へき地教育連盟が発足した年でもあります。今年度で第73集となる「板木」は、群馬県のへき地教育の営みの結晶であるとともに、へき地教育を語る重要な資料であります。改めて、へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝の意を表します。へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、さまざまな施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助、県へき地教育研究大会の開催などの施策を推進しております。

県教育委員会では、「第4期群馬県教育振興基本計画」において、「自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて 一ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける『自律した学習者』の育成」を最上位目標とし、さまざまな取組を推進しております。その基盤となる5つの重点政策の1つに「学びの充実に向けた様々な主体による連携・協働の推進」を掲げ、「地域とともにある学校」・「学校とともにある地域づくり」に向けた取組の充実を目指しております。このような中、県内へき地学校では、小規模校の特性を生かし、子どもたちの主体性を大切にされた教育や、地域とのつながりを生かし、多様な人々と関わりながら課題解決を図る教育を推進していただいております。また、1人1台端末の活用により、多様な交流が可能となり、情報を共有・可視化することで協働的な学びを推進するなど、へき地学校の教育は一層充実してきています。

今年度の県へき地教育研究大会は、長野原町立浅間小学校を会場に、「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった、人間性豊かな子どもの育成～児童生徒一人一人が他者とともに、地域とともに『生きる力』を伸ばす学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～」をテーマに行われました。研究協議では、「豊かな心を持ち、主体的・協働的に学ぶ児童の育成～小規模校の特性を生かした教育活動を通して～」、「ふるさとのよさに気づき、主体的に活動する生徒の育成～『自分と他者を尊重し、自ら考え行動する』協働活動を通して～」について発表がありました。小規模校の特性を生かした教育活動や地域との協働活動を通じて、児童生徒が自ら考え行動し、一人一人が他者とともに、「生きる力」を育む実践が紹介されていきました。また、学校公開では、子どもたちが主体性や協働性を発揮しながら学級全体で学ぶ姿が見られました。

このように、へき地教育に関わる皆様の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られております。これらの教育実践は、へき地校のみならず、すべての学校に多くの示唆を与えてくれるものです。今後もこれまでの実践の成果を踏まえつつ、へき地校ならではのよさを生かした教育を、なお一層推進していただきたいと思っております。県教育委員会といたしましても、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力してまいります。

結びに、へき地教育研究資料「板木」第73集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関において「板木」が十分活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

令和7年3月

群馬県教育委員会

教育長 平田 郁美

「板木」第73集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、群馬県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び群馬県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育に関わる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、複式学級の解消などへき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げてきております。これらは、へき地教育に献身的に

取り組まれてきた先生方や、地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心より感謝申し上げます。

少子化に伴う児童生徒数の減少により学校の統廃合が進んでおり、今年度のへき地学校は昨年度から2校減少し26校となりました。へき地学校に通う児童生徒数も減少の傾向にありますが、心身共に健やかで、地域に愛着をもった子供たちが育っているように感じます。これは、豊かな自然とこれまで大切に守られてきた地域の伝統や行事などを生かし、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒一人一人に寄り添った教育を推進していただいているおかげだと考えております。

将来の予測が困難で価値観の多様化が進む時代を迎え、子供たちの置かれている環境はめまぐるしく変化しております。このような時代においても、これからの社会の創り手となる子供たちが、生まれ育った郷土・群馬に誇りと愛着をもち、学校、家庭、地域における様々な人との関わりの中で培った感性を働かせ、変化や困難にも柔軟に対応し、多様な人々と協働する力や、新たな価値を見いだす力を育ててほしいと願っております。

このたび、へき地教育研究連盟の皆様方が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育実践等をまとめた「板木」第73集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にできるとともに、今後のへき地教育の振興を一層図ることに役立つ大変意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様へ、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。刊行に寄せての挨拶といたします。

令和7年3月

群馬県へき地教育振興会

会長 星野 已喜雄

「板木」第73集の発刊にあたって

平素より関係の皆様には、へき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しましてご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年度も群馬県へき地教育研究資料「板木」が、第73集として発刊の運びとなりました。今年度より紙媒体からデータ配信という大きな変更がありましたが、これまで同様、群馬県へき地教育の貴重な資料として活用されていくものと確信しております。合わせて、これまで「板木」の発刊に携わってこられた多くの諸先輩方のご尽力に対しまして改めて心から敬意を表します。

さて、本県へき地教育研究連盟も加盟しております全国へき地教育研究連盟では、今年度より研究主題「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」～児童生徒一人一人が他者となつがり、地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の深化・充実を目指して～のもと、第10次長期5か年研究推進計画の1年次がスタートしました。急激に変化し、複雑化する社会情勢の中で生き抜いていく子供たちに様々な資質・能力を身に付けさせる必要性や、現行学習指導要領を受け、これまでの第9次長計の成果と課題を踏まえて、21世紀を生きる子供たちに地域の一員として「ふるさと」から学び、「ふるさと」のよさを発信し、「ふるさと」の未来を考える、心豊かな子供たちに育ててほしいという思いが、この研究主題には込められています。

これを受けて、今年度の第73回全国へき地教育研究大会岡山大会が「ふるさと岡山への誇りと愛着を持ち 未来を拓く人間性豊かな子どもを育てよう」を大会スローガンとして開催されました。大会の発表では、へき地校の特性を強みとして、豊かな体験活動や地域の歴史、伝統文化、人々の暮らしや自然を活用した学びを展開してきた岡山県のへき地教育の伝統を感じました。加えて岡山型PBL (Project Based Learning) という県の課題解決型学習のスタンダードの中で、へき地校の特色を生かす意欲的な取組によってすばらしい教育効果を上げていることを、子供たちの姿を通して目の当たりにすることができました。

群馬県では、今年度新設された長野原町立浅間小学校を会場に研究大会が開催され、新たな人間関係、学習環境の中で生き生きと活動している児童主体の学習の様子を見ることができました。研究協議で提案していただいた高崎市立宮沢小学校では、小規模校の強みを生かした体験活動に加え、教科担任制の積極的な導入や目指す児童の共有などを通して、児童が豊かな心を持ち、主体的・協働的に学ぶ力の育成に学校が一丸となって取り組む様子がわかりました。沼田市立利根中学校では、学校運営協議会の充実のもと、総合的な学習の時間を通して地域に対する理解を深め、ふるさとを見直してよさに気付いたり、地域の人々の本音にも触れる中で、自分がふるさとのためにできることを考え実践しようとしたりする、進んで地域に参画し地域とともに歩む生徒の育成を学校と地域が一体となって取り組んでいる様子がわかりました。

このような特色ある教育活動を始めとして、「板木」にはこれまでに積み重ねてきた教育実践とそれを基にした新たな課題解決に向けた研究が結集しています。「教育の原点はへき地教育にあり」とも言われています。この「板木」が、へき地のみならず、未来の創り手となる子供の育成につながっていくことを祈念しております。

結びになりますが、「板木」第73集発刊に当たり執筆や編集に携わっていただきました先生方にお礼を申し上げますとともに、日頃よりご指導とご支援を頂いております群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げ、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。

令和7年3月

群馬県へき地教育研究連盟
理事長 関 幹彦

も く じ

序 文

序	群馬県教育委員会教育長	平田 郁美
「板木」第73集の刊行に寄せて	群馬県へき地教育振興会長	星野 巳喜雄
「板木」第73集の発刊にあたって	群馬県へき地教育研究連盟理事長	関 幹彦

第1部 へき地教育の振興

I 変貌するへき地の学校

安中市立細野小学校長	小高 哲茂	----- 1
------------	-------	---------

II へき地の学校経営

〈1〉小学校 高崎市立倉渕小学校長	横谷 隆	----- 2
〈2〉中学校 中之条町立六合中学校長	塩野谷喜生	----- 4

III 学習指導の改善に関する実践的な研究

高山村立高山小学校長	浅井 広之	----- 6
------------	-------	---------

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校 草津町立草津小学校長	水出 宣広	----- 8
〈2〉中学校 片品村立片品中学校長	佐々木 孝	----- 10

第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 令和6年度へき地学校教員研修の概要	-----	12
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
嬭恋村立嬭恋中学校長	小池 裕生	

II 第73回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉 概要	-----	13
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
嬭恋村立嬭恋中学校長	小池 裕生	
〈2〉 提案要旨		
《小学校班》 高崎市立宮沢小学校長	松井 勝	----- 14
《中学校班》 沼田市立利根中学校長	林 崇夫	----- 16

III 第73回全国へき地教育研究大会（岡山大会）

〈1〉 概要報告	-----	18
群馬県へき地教育連盟研究部長		
嬭恋村立嬭恋中学校長	小池 裕生	
〈2〉 分科会報告		
A分科会 嬭恋村立嬭恋中学校長	小池 裕生	----- 19
B分科会 東吾妻町立坂上小学校長	関 幹彦	----- 19
C分科会 みなかみ町立藤原小学校長	松原 孝志	----- 20
D分科会 神流町立中里中学校長	茂木 宏隆	----- 20
E分科会 県義務教育課指導主事	高橋 博愛	----- 21

《資料》

I 令和6年度へき地学校資料	-----	22
II 令和6年度群馬県へき地教育振興会役員	-----	25
III 令和6年度群馬県へき地教育研究連盟役員	-----	26
IV 令和6年度群馬県へき地教育センター指導員	-----	26
V 令和6年度へき地教育功労者	-----	27

あとがき	-----	28
------	-------	----

第 1 部

へき地教育の振興



群馬県へき地教育研究大会 開会行事



群馬県へき地教育研究大会 研究協議会

I 変貌するへき地の学校

安中市立細野小学校の閉校

安中市立細野小学校長 小高 哲茂

1 細野小学校の概要

細野小学校は、明治12年（1879）に村内4つの私塾を合わせて細野西小学校を開設したことに始まる。初代校長は若き日の柏木義円であった。以来、移転や改修、名称変更はあったが、この地で児童の教育を担ってきた。昭和63年（1988）に体育館が、平成8年（1996）には現在の校舎が完成している。卒業生は、記録の残る明治34年（1901）より、今年度の5名を加え7407名となった。全校児童数は、450人を超えた時期もあったが、平成元年（1989）に200人を割り込み、今年度は31人であった。



細野小学校 校舎全景

2 細野小学校の取り組み

本校では、「自ら学び 心ゆたかに たくましく生きる 細野っ子の育成」を基本目標、「すすんで勉強 みんなと仲よくたくましい子」を具体目標（目指す児童像）として、豊富な体験や創作活動を重視した少人数ならではの学びの充実に取り組んだ。教職員は、個々の児童の表現、活躍の場を大切にすることやエージェンシー発揮の根源となる好奇心の喚起を念頭に、それぞれの持ち味を生かした学習活動を展開、学力向上に努めた。



『鳥獣戯画』のレプリカを使った授業

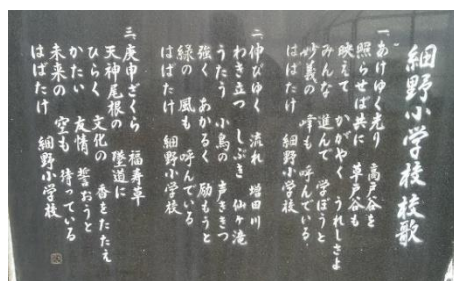
さらに、児童会活動、縦割り班活動を通して、児童の自主性や創意工夫を喚起するとともに、下級生への優しさや上級生を手本としたよい行動を育むなど、児童それぞれのより豊かな心の成長を図った。



運動会結団式（全児童とスローガン）

また、長年継続してきた活動として、運動会の演技「まつりの太鼓」は40年以上、6年生による和太鼓演奏「絆太鼓」は14年目となり、世代を超えた共通体験は学校と地域を結ぶ一助となっていた。

そして、細野三会（細野小学校PTA、松井田北中学校PTA、細野教育振興会）という組織が中心となり、家庭、地域全体で学校を支えてくれたことも、教育活動を充実できた大きな理由である。



校舎改築記念碑に刻まれた校歌

3 閉校にあたって

新年度からは松井田小学校が、細野地区を校区とし、新たな「地域の小学校」となる。市の進めるコミュニティ・スクール制度では、学校と地域は互いに手を取り合うことが求められている。今後、地域素材を生かした教育課程の充実も図られることから、新たな体制の中でも、地域と学校が共に伸びる連携の在り方を工夫し、子供たちに確かな学力と郷土愛を育む教育環境を実現していきたい。

閉校する細野小学校145年の歩みを支え続けた方々、地域の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

Ⅱ へき地の学校経営

〈1〉 小学校

みんなが輝く倉渚小児童の育成

～児童一人一人が主体的に取り組む学校づくりを通して～

高崎市立倉渚小学校長 横谷 隆

1 学校の概要

本校は、榛名山の西の裾野、高崎市の一番西にあり、長野県との県境に接している。緑豊かな山々に囲まれていたり利根川の支流である烏川が流れていたり自然が豊かな学校である。平成23年度に倉渚東小学校、倉渚中央小学校、倉渚川浦小学校の3校が統合して高崎市立倉渚小学校となり、本年度で開校14年目を迎えた。

本校の特色の一つとしては、平成30年度から山村留学「くらぶち英語村」の児童を受け入れることが挙げられる。「くらぶち英語村」は、高崎市が旧倉渚川浦小学校の敷地に作った施設で、今年度は7年目を迎え、小学生9名、中学生13名の児童生徒が親元を離れて英語を日常的に活用する留学生活をしている。県外からの留学生がほとんどで、北海道から留学している児童もいる。

児童の主な通学方法は、路線バスであるが、バスの停留所まで距離のある数名の児童は、タクシーで通学している。また、保護者が自家用車で送迎している児童も多い。

令和6年度の児童数は78名、学級数は6学級である。



【倉渚小学校校舎】

2 学校教育目標

確かな学力を身に付け、思いやりのある、健康でたくましい倉渚小の児童を育成する。

3 目指す児童像

- (1) よく考え進んで学ぶ子
- (2) 思いやりのある子
- (3) 元気でじょうぶな子
- (4) 自然を大切にする子



【横断幕「みんなが輝く倉渚小」】

4 学校経営方針

「みんなが輝く倉渚小」

高崎市が目指す子供像「たくましく、すすんで未来を切り開く子供」のもと、本校の学校教育目標の実現に向けて、以下の方針で教育活動を行う。

- (1) 互いの違いやよさを認め合い、高め合う集団を育成することで、個を伸ばす。
- (2) 児童・保護者の心情に寄り添い、児童のやる気や根気を引き出す。
- (3) 教職員集団が一枚岩となって、徹底・継続した指導を行う。
- (4) 主体的に考える授業から、児童に成就感・達成感を味わわせる。

5 実践の概要

児童は、就学前から中学校までの10年近くをほぼ同一の集団で過ごすため、互いに気心が知れ、和やかな雰囲気の中で活動することができている。そのため、与えられた課題などには意欲的に取り組むことができる児童が多いが、先を見通して自分から考えて進んで行動することが苦手な傾向がある。そこで、児童一人一人が主体的に取り組む学校づくりのために以下の実践を行ったので紹介する。

(1) 確かな学力の向上（個別最適な学びと協働的な学びによる主体的に学ぶ児童の育成）

各教科において児童の実態に合わせた個別最適な学習や協働的な学習を取り入れた授業を構想することで、学び方の基礎・基本の定着やそれらを主体的に活用する力が身につくように校内研修を中心に取り組んだ。タブレット端末を活用することで、児童が自ら課題に気づいたり、主体的に学習に取り組むことができた。また、教職員が互いに授業を見合い話し合うことでタブレット端末の有効的な活用法を共有できたり改善策や他の授業展開が考えられたりして児童一人一人が主体的に学習に取り組むための授業改善につながった。



【タブレット端末を活用した授業の様子】

(2) 豊かな人間性の育成（縦割り班活動による温かい集団の育成）

「清掃活動」、「子供集会（児童会活動）」、「運動会」、「大明神山レクリエーション（学校行事）」など様々な場面で児童の縦割り班活動が行われている。高学年の児童が低学年の児童をまとめることで高学年の児童一人一人が主体的に取り組むことができた。また、低学年児童一人一人も高学年児童から優しくされることで、自己肯定感が上がり、倉渕小学校の一員として主体的に取り組む意識を高めることができた。



【縦割り清掃の様子】



【子ども集会の様子】



【大明神山レクリエーションの様子】

(3) 心身の健康と体力の向上（委員会活動による意欲的に健康な体を作る態度の育成）

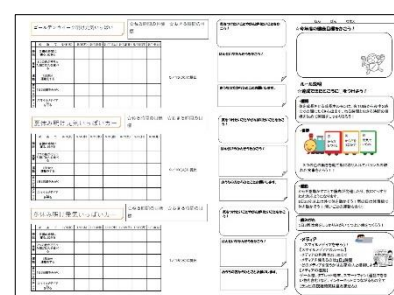
体育委員会によるイベントや保健給食委員会による学校保健委員会などを通して学校全体で健康な体を作る意識を高めることができた。また、「睡眠」、「食事」、「運動」、「歯みがき」、「メディア」について、年間を通して記録する「元気いっぱいカード」を活用して、児童一人一人が生活習慣を振り返ることで、心身の健康について主体的に取り組もうとする態度を高めることができた。



【体育イベント「手つなぎ鬼」の様子】



【学校保健委員会の様子】



【元気いっぱいカード】

6 おわりに

本校は、小規模校のため和やかな雰囲気与生活できていたが、全国から集まる「くらぶち英語村」の留学生を受け入れるようになってからは、毎年新しい人間関係を構築しなければいけない状況になっている。そのため、本校の児童が輝いて明るく生き生きと学校生活を送るためには、児童一人一人が主体的に学習や生活に取り組み、積極的に自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを受け入れたりできるコミュニケーションの実践力を身に付けて、新しい環境にすぐに順応していく必要がある。今後も児童一人一人が主体的に取り組む学校づくりのために職員や児童にとって分かりやすいシステムを模索していきたい。

〈2〉 中学校

極小規模校としての特長を生かした教育の推進

中之条町立六合中学校長 塩野谷 喜生

1 学校の概要

本校の学区は、群馬県北西部、標高600m～2,300mに位置する中之条町の旧六合村地区である。学区の大半は山林で、南北に白砂川が流れ、その谷あい集落が点在する花卉栽培が盛んな地域である。地域内には、高山植物の宝庫である野反湖、湿原が点在する芳ヶ平、国指定天然記念物のチャップミゴケの群生地など、豊かな自然があり、これらの自然とともに育んできた伝統文化が、今も多く残されている。学区内には、こども園、小学校、中学校がそれぞれ一つずつあり、運動会や文化祭などの行事を合同で開催している。

本校は、昭和22年に六合村立六合中学校として創立された。平成5年に六合村立入山中学校との合併を経て、平成22年の中之条町と六合村の町村合併によって中之条町立六合中学校となり、現在に至っている。本年度の生徒数は、1年生8名、2年生4名、3年生4名の計16名であり、昨年度の全校生徒9名からは増加したものの、単独の中学校としては県内でも最小規模の、へき地1級の学校である。

2 学校教育目標

【基本目標】

「強い意志と創造力をもった、心身ともに健康で、人間性豊かな生徒の育成」

3 目指す生徒像

【具体目標】

目指す生徒像（主体的に活動する生徒）

- 意欲をもち進んで学ぶ生徒
- 心豊かで思いやりのある生徒
- たくましく個性を伸ばす生徒

4 学校経営の方針

《極小規模校としての特長を生かした教育の推進》

- 生徒数の減少により生じる学校課題の解決
- 特色ある教育課程の編成・実施
- 個に応じたきめ細かな指導の推進
- 生徒主体の明るい学校づくりの推進

《地域に根ざし、開かれた信頼される学校づくりの推進》

- 生徒と教師、生徒相互のふれあいを大切にしたい心を通う人間関係の構築
- ふるさとを愛し、誇りに思う気持ちの涵養
- 地域の自然や伝統文化を取り入れた教育活動の推進
- 六合こども園、六合小学校との連携・協力による一貫教育の推進
- 保護者や地域への情報発信や教育活動の公開による開かれた学校づくりの推進

5 実践の概要

本校は、地域との結び付きが特に強く、学区内の伝統・文化・自然等を調べる「六合ふるさと研究」、環境教育の一環として取り組む「シラネアオイ保護活動」、地域人材を指導者に迎えて取り組む武道「弓道授業と弓道部の設置」等、特色ある教育活動を実践している。

(1) ふるさと研究

ふるさとを愛し、地域を大切にしようとする生徒を育成するため、総合的な学習の時間に「六合ふるさと研究」に取り組んでいる。この学習は、統合前の旧入山中学校で行われていた地域学習「入山研究」を起源とし、統合後に名称を変更して取り組んでいる歴史と伝統のある学習であ



る。六合地区の自然や歴史、生物、特産物、伝統工芸等について体験的・探究的に学ぶことを通して、ふるさとを誇りに思う気持ちや郷土を愛する心情を深め、自己肯定感を高めるとともに自己の生き方について考えることを目標としている。生徒一人一人が、ふるさと六合に関する興味や関心、また、様々な体験等をもとに設定した課題について、調査・研究を行い、研究の成果を11月に開催される園小中と地域合同の文化祭で発表している。

学習の過程で地域の方々にインタビューを行ったり、講師として指導していただいたりする場面があり、生徒たちが地域の方々と触れ合う貴重な機会にもなっている。

(2) シラネアオイ保護活動

平成8年から、野反湖畔の八間山の麓でシラネアオイの保護活動に取り組んでいる。以前は苗の植栽も行っており、これまでに約90,000本の苗を植えている。たが、ここ数年苗の育ちがよくないため、秋に環境整備の草刈りを中心に行っている。春には、古代紫の美しいシラネアオイが山の斜面に咲き誇る様子を現地で見学し、六合地区在住で保護活動を行っている方から、保護活動の大切さや難しさ、八間山の自然などについてお話を聞く「シラネアオイ開花見学」を行っている。



貴重な高山植物を保護する活動は、そこを訪れるたくさんの人々に感動を与えるとともに、生徒たちが郷土に誇りをもつことにつながっている。

(3) 弓道への取組

本校の弓道への取組は、平成27年度にさかのぼる。地域の特色を生かした学校づくりの一貫として「弓道部」を設置し、地域人材を指導者に迎えた部活動としてスタートした。その後、平成30年度から保健体育の武道分野に弓道の授業を取り入れ、令和元年度からは武道推進モデル校の指定を受け、体力向上や武道指導の充実に取り組んできた。



保健体育の授業に弓道を取り入れたことで、卒業するまでに全生徒が弓道を体験できるということが本校の特色となった。また、地域人材を活用することで、地域の方々と触れ合う体験となり、開かれた学校づくりにつながるとともに、地域の伝統や文化を学び、地域を誇りに思える生徒の育成につながった。

6 おわりに

六合中学校は、学校を大切に思い、地域全体で子どもたちを見守ろうとしてくださる方々に支えられた「地域の学校」である。このような環境で育つ子どもたちは、潜在的に「六合が大好き」という気持ちをもっている。学校の役割はその気持ちをより確かなものにすると考え、地域学習や環境保護活動、学習を通じた地域の方々との触れ合いを大切にした教育を推進してきた。

○「六合ふるさと研究」は、昨年度より、班別の共同研究から個人で取り組む研究へと研究方法を転換して一つのテーマを3年間かけて研究できるようにし、学びの質が高まることを目指している。

○「シラネアオイ保護活動」は、可能であれば苗の植栽から関わることが理想だが、現在は難しい状況にある。学校で苗を育てることが可能かどうか、関係者と検討を行っている。

○「弓道」は技術の習得に時間がかかるため、基本動作を身に付ける時間と、実際に弓を射る時間のバランスが難しい。また、今後、継続的に指導者を確保していくことが課題である。

このように地域との結びつきが強い本校であるが、今後さらに生徒数減少が進むことから、令和8年度には教育事務を近隣の長野原中学校へと委託し、休校となる予定である。生徒の不安をできるだけ解消し、新たな生活がスムーズにスタートできるよう準備を進めながら、六合中学校のよさや伝統を、長野原中学校にどのようにして引き継いでいくかについて考える毎日である。

Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

自分の思いや考えをもち、表現できる児童の育成

～各教科等のねらい（目標）に迫るICTの効果的・効率的な活用を通して～

高山村立高山小学校長 浅井 広之

1 主題設定の理由

本校は、吾妻郡の北東端の山間部に位置する学校で、高山村立東小学校と西小学校2校の統合によりスタートした、現在42年目を迎える学校である。今年度の全校児童数は121名であり、地域と協働で子どもを育てる環境を整えている。子ども達は、素直で明るく落ち着いて学校生活を過ごしている児童がほとんどである。その一方で、固定化された友人関係の中で育つ姿や、年齢の上下に関わらず対等に過ごすことも見受けられる。全校児童数が減少する中、都市部のような学年複数学級を有しておらず、授業において多種多様な意見交流が活発に行われているとは言い切れない。

前年度までの研究において、情報活用能力の育成や各教科の指導のための1人1台端末を活用した標準的な指導モデルの構築を目指すことの必要性が注目され、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために効果的なICTの活用方法を探り、ICTを活用した授業を日常的に実践することが大切と考えた授業実践が行われてきた。一方で、授業においてICTをより効果的に活用するためには、教科等の指導目標を明確にし、系統性を踏まえた指導がより重要であることが分かってきた。ICT活用が目的となる授業が見られたり、学び合いの視点まで研修を深めることができずいたりするということが表出することが考えられた。そこで本年度は、これまでの研究の成果と課題を生かしながら、特定の教科に絞らず、各教科の目標に迫るより効果的・効率的なICTの活用を深めていきながら、自分の思いや考えをしっかりと持ち、それを表現できる児童の育成が大切であると考え、本主題を設定した。

2 研究の基本的な考え方

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたより有効なICTの活用方法を明らかにするとともに、学び合いの視点を明らかにし、各教科のねらい（目標）に迫ることができるICTのより効果的・効率的な活用により、自分の思いや考えを表現できる児童の姿がみられると考え、以下のような取組をすることとした。

- ICTを効果的・効率的に活用し、児童が自分の思いや考えを表現することができる授業を
実践するための視点を設定し、ブロック別研修を実施し、その後の授業研究会で授業の成果と
課題を共有する。
- 児童の学びの連続性を目指した教育データの情報収集及び活用方法について、研究を進め
る。
- 情報交換や計画の確認・修正、実践の成果と課題を明らかにし、今後の授業改善に役立て
る。

3 実践例

(1) 単元名 4年社会科「住みよいくらしをつくる（ごみのしよりと利用）」

ねらい：学習してきたことをもとに、ごみの処理の仕方を自分でまとめたり友だちと意見を
交流したりして、それぞれの生活場面で生かせるようにする。

① 使用機器等

- ・ タブレット（インターネットの活用 提出用アプリケーションの使用）・大型提示装置

② 学習の流れ

- ・ 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。

- ・ 集めた情報を基に、ごみ処理の仕方について交流する。＜タブレット活用場面：家庭・学校・地域だけでなくスーパーでもトレイなどを回収し、ごみの処理を工夫していることを捉えられるように、実際の写真を提示する。＞
- ・ 本時のまとめをし、学級全体で共有して学習の振り返りを行う。

③ タブレット活用の効果

- ・ 興味のある内容を選択してまとめあげたものを、お互いに説明し合ったり、紹介し合ったりする中で、自分の考えを再考する際の一助となった。（インターネットの活用）
- ・ 一覧表示により、自席にいながらにして、多くの他の児童の考えや調べた内容を確認することができ、自分の考えを再構築し、新しい考えをまとめあげることができた。（提出用アプリケーションの使用）

(2) 単元名 6年生・国語科「デジタル機器と私たち」

ねらい：付箋を使ってグループで文章構成を考える活動を通して、全体の文章構成を把握しながらまとまりのある構成を考えられるようにする。

① 使用機器等

- ・ タブレット（ドキュメントの活用 提出用アプリケーションの使用）
- ・ 大型提示装置（タッチパネル機能付き）

② 学習の流れ

- ・ 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。
- ・ 前時に書いた身近な体験や調べたことの付箋を持ち寄り、文章の構成を考える。＜タブレット活用場面：付箋は前時に書き込んでおき、グループワークにすぐ取り組めるようにしておく。＞
- ・ 文章構成のつながりを確認し、提案のまとめを考える。＜大型提示装置（タッチパネル機能付き）活用場面：付箋操作を行ったり、提案とのつながりがわかるように線で結んだりする。＞
- ・ 本時のめあてに対する振り返りを記入し、学習内容を振り返る。

③ ICT機器活用の効果

- ・ 児童の考えを基に、画面上で線をつないだり補足を記入したりすることで、画面上で感覚的にわかりやすく提示や説明をすることができた。（大型提示装置の使用）
- ・ 児童の意見や考えを全体で共有する場面において、練り上げられた内容で収集したり、より確実に行ったりすることができた。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 授業を進める際に、多くの授業者が各教科等のねらい（目標）に迫る授業展開を強く心掛けるとともに、ICTを効率的・効果的に活用することを考えていくようになった。
- ② ICTを活用することで、誰1人取り残すことなく児童における表現する時間を確保したり、お互いの考えをより多く確認したりすることができた。
- ③ 上記実践例の他、5年国語や2年算数、1年通級指導教室（言語）などの研究授業を順番に行う中で、指導者が各研究授業で協議された内容を可能な限り生かしながら取り組もうとする姿勢が見られた。

(2) 課題

- ① 各教科等のねらい（目標）に迫るために、個別学習や協働的な学習を充実させ、教師が「させる」授業から、児童が「する」授業への、より一層の転換の必要性がある。
- ② ICTを効率的・効果的に活用する授業を進め、誰もが「表現することが楽しい」と感じ取れる授業づくりを研究する必要がある。

Ⅳ へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校

自己指導能力を高める生徒指導

草津町立草津小学校長 水出 宣広

1 地域・学校の概要

本校のある草津町は群馬県の北西部に位置し、草津白根山の麓にある日本でも有数の観光地「草津温泉」にある。湯畑を中心とした温泉街に加え、周辺にはスキー場や多くのリゾートホテルがあり、年間370万人を超える観光客を受け入れている観光立町である。

本校は、明治7年(1874)に草津小学校として開校し、今年で創立150周年となる町内唯一の小学校である。今年度の児童数は、174名、学級数は10学級(1・5年各2学級、2～4・6年は各1学級、特別支援学級2学級)である。「自ら考え、正しく判断し、意欲的に行動できる草津っ子の育成」を基本目標とし、「やさしく つよく かしこく すこやかに」をスローガンに掲げ、全教職員はもとより、家庭や地域の方々の協力を得て学校教育活動を展開している。

2 生徒指導の目標・方針

目標：児童が自分のよさや可能性を伸ばすとともに他者を尊重し、社会生活で必要となる資質や能力を身につけることを支えていく

方針：(1) 一人一人の児童の個性を大切にする。

(2) 相手の立場に立って考え、行動できる関係を築く。

(3) 自分で考え、決定し、行動する経験の機会を設定する。

(4) お互いの違いを認め合い、安心して学校生活を送れる風土をつくる。

(5) 問題行動のある児童の早期発見に努め、組織で対応するとともに、必要に応じて専門機関と連携していく。

3 実践の概要

(1) 児童会活動との連携

① JRC活動

JRC登録式の際、児童会本部役員が、全校児童に“気づき 考え 実行する”を2本の劇にして示した。「重い物を運ぼうと困っている人がいたら」、「転んでけがをしてしまった人がいたら」という劇で、1年生にとっても分かりやすいものであった。JRC基本理念は、生徒指導における自己指導能力と大きく重なる。



<JRC 登録式>

② あいさつ運動

今年度、本活動の実施の是非を児童会本部役員に検討させ、「ぜひやりたいです。」となり取り組んだ。本部役員は、“あかるく、いつも、さきに、つづけよう”のカードを首にかけながら、大きな声で堂々と登校してくる児童とあいさつを交わす姿があった。



<あいさつ運動>

(2) 学校保健委員会

始めに、保健委員が歯の健康に関わるアンケート結果を報告した。本校は、1日に3回歯みがきをしている児童が一番多く、おやつにはスナック菓子やチョコレート、アイスを好んで食べていることなどを伝えてくれた。次に、保健委員が調べたり考えたりして作った歯に関する〇×クイズを参加者全員で回答しながら楽しく、正しい知識を学ぶことができた。



<学校保健委員会 クイズ>

〈2〉中学校

自己有用感を育み主体的に活動できる生徒の育成



片品村立片品中学校長 佐々木 孝

1 地域・学校の概要

片品村は高山植物と湿原で全国に名高い尾瀬をはじめ武尊山、白根山などの周囲の山々が織りなす山岳景観や、丸沼・菅沼の湖水美などのすばらしい自然環境に恵まれ、さらに冬には村内に複数のスキー場がオープンし、年間を通して訪れる観光客でにぎわっている。本校は片品村の中心に位置し、今年度は生徒数81名、5学級の小規模校である。「豊かな人間性」「生きた学力」「強い身体」を磨く生徒の育成を学校教育目標とし、学習や部活動に真摯に取り組む生徒が多く見られる。校区が広くスクールバスを利用して登下校する生徒が多い。特色としてアルペン・クロスカントリーのスキー部が存在し、毎年全国大会に出場する生徒もいる。群馬県立尾瀬高等学校と中高連携を行っており、授業支援や高校生との交流を行っている。また、令和3年度より片品村学校運営協議会を小中連携して設置し、学校・家庭・地域が一体となって子供たちを育むことを目指している。

2 本年度の生徒指導の方針

自己有用感を生む場の意図的な設定〈自己決定、自己肯定感を基盤に〉と工夫、生徒会や委員会の活性化を核にした主体性の醸成

3 具体的な取組例

(1) 「わかりやすい授業」を生徒指導の基盤として

- ・単元・題材の目標を達成した姿を明確にし、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想を実践し、必要感のある課題の提示と身に付けた知識・技能の活用をはかる。

① 授業実践（例）

英語の授業において、単元課題を設定し、アメリカや台湾の生徒や教員と交流している。生徒数が少ないことが幸いして、一人一人が英語を使う機会を増やすことができた。普段あまり外部の人たちと交流がない生徒にとって、英語が通じたことによる自己肯定感を高めることにつながったり、自分自身の自信につなげたりすることができている。また、社会の授業では沼田市の中学校とお互いの地域の取組について発表し合った。自分の地域の現状と未来について考える良いきっかけになり、次の単元に向けて必要感のある課題を設定することができた。



② 「SOS の出し方」、「SOS の受け止め方」

生徒指導主事が生徒の実態を踏まえて指導案を作成し、さらに SC や担任が各学年の実態に応じて加筆修正を行い授業を実施している。授業終了後、村の保健師による「命の大切さ」についての講演をしてもらい、自他の命の大切さを改めて学ぶことができるようにしている。

(2) 縦割り活動による自己肯定感・自己有用感の育成として

① 体育祭

全校生徒1～3年生を縦割りで編成し、それぞれ至仏団、武尊団、白根団の3つの団を設定している。練習から先輩は後輩の面倒をしっかりと見ており、団で協力してお互いの仲を深めることができている。団長は3年生、副団長は1・2年生が1名ずつ務め、体育祭で団の優勝に向けてお互いを励ましたり、練習を工夫したりしながら取り組むことができた。団で競い合うことにより、真剣かつ熱のこもった体育祭を実施できるとともに、各学年が発達段階にあった満足感を味わうことができた。がんばった自分や同級生、他学年の仲間を褒めたり称え合ったりする姿が見られた。

② 全体合唱

「片中文化の日」(文化発表会)で、各学年の合唱の他に全校生徒での合唱を行っている。それぞれの学年が「かたしな」という課題曲と今年度は「春愁」という曲で全体合唱を行った。全体練習のための時間を放課後や全校音楽の授業として行い、「片中文化の日」に参観に来た保護者や地域の方々に披露した。また、利根郡音楽祭に全校生徒が参加し、同じ合唱曲を披露した。練習の際には、3年生のパートリーダーが中心となって、下級生を指導したり励ましたりして取り組むことができた。また、合唱について保護者や地域の方々、他校の先生方から称賛いただいた。



(3) 生徒主体の取組

① 生徒会レクリエーション

体育祭と同じ団対抗で行っている。企画運営は生徒会本部が務めている。生徒主体で種目決めを行い、バドミントンやバレー等のスポーツ、上毛かるたやクイズ等の文化的なものを実施している。運動が得意でない生徒も楽しむことができる。



② 片中グランプリ

「片中文化の日」に開催した。日頃から頑張っている特技を全校生徒の前で披露する。今年度はピアノや尾瀬太鼓の演奏、ダンスや歌、得意なゲームをしている動画などが披露された。自分のことを他の人たちに知ってもらい、他の人たちにとってもその人のことをさらに知るいい機会になった。



③ スマイルツリー

生徒会本部役員が主体となり、それぞれの生徒が自分がされてよかったことやうれしかったことをメッセージカードに書く。自分がしたことが友達の手助けになったことを知る機会となっている。

④ 学校生活のきまりの見直し

生徒会本部役員と各学年の学級委員長が学校生活のきまりの中にあるルールについて毎年見直しをしている。また、その中にあるキーワードの中から重点目標を決め、全校生徒に周知している。生徒主体で行うことで、自己有用感を高めたり、自分たちからより良い学校をつくっていかこうとする意欲を高めたりすることができている。また、片品中 SNS ルールについて、スマートフォンなどの通信機器の所持率や通信アプリ等の変化に応じた内容に定期的に見直す機会をもち、自分たちで決めたことをしっかりと守ろうとする意識を高めている。

4 おわりに

本校の生徒指導の方針に基づき、まずは自分を好きになる、大切に作る意識をもてるよう、授業で自己決定の場の設定や活躍の場面をもてるようにしてきた。また、学校生活の中で自分自身をほめる機会を多くもたせるようにし、自己肯定感を高めるようにしてきた。この自己肯定感を基盤とし、自分を褒めたように友達の活躍や頑張ってきた過程を認めたり褒めたりすることで、自己有用感を高められるよう教育活動に取り組んできた。学校行事や授業の中で、少しずつではあるが自分の成長に向けて取り組む姿や学級・学年をよりよく向上させようとする意欲が向上してきている。本校の取組は、へき地小規模校の生徒指導として特色のあるものとは言い難いが、今後も生徒の自己指導能力の育成を目標とし、その基盤作りとして継続して取り組んでいきたい。さらに、これらの教育活動を一人一人がエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成を図れるようにつなげていきたい。

第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



浅間小学校の授業の様子（道徳）



浅間小学校の授業の様子（国語）

I 令和6年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

嬭恋村立嬭恋中学校長 小池 裕生

1 令和6年度へき地学校

令和6年度の県内へき地学校について、加盟校数は前年度より2校減の26校である。また、昨年度より児童生徒数は114名減の小学校1,137名、中学校597名、合計1,734名、教職員数は29名減の小学校201名、中学校130名、合計331名となった。へき地学校の児童生徒の占める割合は県内全体の小学校で1.3%、中学校で1.3%となった。県へき地教育研究連盟としては、へき地の学校の特性や地域性を生かした教育活動を進め、今日的な課題に対応した教育を推進するための取組を行ってきた。

2 活動方針

(1) 研究主題

『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった、人間性豊かな子どもの育成』
～児童生徒一人一人が他者とながら、地域とともに「生きる力」を伸ばす

学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

全国へき地教育研究連盟 第10次長期5カ年研究推進計画 令和6年度～令和10年度

(2) 活動方針

- ① 本連盟は、群馬県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
- ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
- ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯や親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。

(3) 活動内容

- ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深めるため、広報「県へき連」を発行している。
- ② 毎年、へき地教育研究大会を、県教育委員会及び県へき地教育振興会と共同開催している。令和6年度は長野原町立浅間小学校を会場として開催した。
- ③ 県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力して、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に努めている。

3 研究・研修の概要

- (1) 第73回全国へき地教育研究大会岡山大会 10月10日(木)・11日(金) 岡山県
来場型とオンライン型の同時開催
- (2) 第73回群馬県へき地教育研究大会 10月17日(木) Bブロック(吾妻)
長野原町立浅間小学校を会場に実施
- (3) 令和6年度関東甲信越へき地教育研究連盟研究協議会 8月9日(金)
茨城県水戸生涯学習センター 参集型+オンライン型
- (4) 第50回全国へき地教育研究連盟研究推進協議会 11月28日(木)・29日(金) 東京都
- (5) 広報「県へき連」第92号発行
- (6) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第73集発行

Ⅱ 第73回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長
嬭恋村立嬭恋中学校長 小池 裕生

1 趣 旨 へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。

2 テーマ 『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成』
～児童生徒一人一人が他者とながら、地域とともに「生きる力」を伸ばす
学校・学級経営と学習指導の深化・充実にめざして～
全国へき地教育研究連盟 第10次長期5カ年研究推進計画 令和6年度～令和10年度

3 期 日 令和6年10月17日（木）

4 会 場 長野原町立浅間小学校

5 参加者 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 長野原町教育委員会
西部教育事務所 吾妻教育事務所 利根教育事務所
群馬県へき地校校長

6 日 程

8:45	9:15	9:35	10:35	11:15	12:00
受付	開会行事	全体会 研究協議	学校公開	情報交換	

7 開会行事 あいさつ 群馬県教育委員会教育長 群馬県へき地教育振興会会長
長野原町教育委員会教育長 群馬県へき地教育研究連盟理事長

8 研究協議

小学校 (Aブロック)	高崎市立宮沢小学校 校長 松井 勝 ○テーマ 「豊かな心をもち、主体的・協働的に学ぶ児童の育成」 ～小規模校の特性を生かした教育活動を通して～
中学校 (Cブロック)	沼田市立利根中学校 校長 林 崇夫 ○テーマ 「ふるさとのよさに気付き、主体的に活動する生徒の育成」 ～「自分と他者を尊重し、自ら考え行動する」地域学校協働活動を通して～

9 学校公開 1年生 算数 藤倉 優衣 教諭 (1年教室)
2年生 国語 山崎 みな 教諭 (2年教室)
3年生 国語 岡部 雄祐 教諭 (3年教室)
4年生 図工 熊川 祐子 教諭 (図工室)
5年生 道徳 西村 和人 教諭 (5年教室)
6年生 理科 佐藤 憲司 教諭 (理科室)
2組 自立 安済 和美 教諭 (3組教室)
3組 自立 松本 美香 教諭 (3組教室)

10 情報交換

〈2〉 提案要旨

《小学校班》

豊かな心をもち、主体的・協働的に学ぶ児童の育成

～ 小規模校の特性を生かした教育活動を通して～

高崎市立宮沢小学校長 松井 勝

1 学校の概要

本校は、榛名山南麓の標高 360m の山間部に位置している。南に大きく視界が開け、山々の緑が美しく、眼下に広がる高崎市街地を見渡すことができる。校区は、古くは養蚕が盛んであったが、現在は、果樹栽培（梅・梨・桃など）・野菜栽培（十文字大根など）・畜産が盛んである。昭和 55 年に榛名町立第六小学校（現久留馬小学校）西分校から独立し、榛名町立第八小学校として開校した。平成 18 年には、高崎市との合併を機に、校名を高崎市立宮沢小学校へと変更した。

本年度は、児童数 27 人、教職員 17 人でスタートした。自然に恵まれた学習環境の中で、地域の人たちの支援を受けながら、小規模校の特性を生かし、「全教職員が全児童の担任」をモットーとしてきめ細かな指導に取り組んでいる。また、十文字大根栽培（総合的な学習の時間）、縦割り班活動の充実など、特色ある教育を展開することにより、子供たちの豊かな人間性の育成に努めている。



【宮沢小全景】

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

将来を担う子供たちが豊かな心を持ち、主体的かつ協働的に学ぶ力を身に付けることは、現在の社会において重要な課題である。特に小規模校においては、その特性を生かした教育活動が、児童一人一人の個性や能力を最大限に引き出し、主体的・協働的に学ぶ力を身に付けるための有効な手段となり得ると考える。

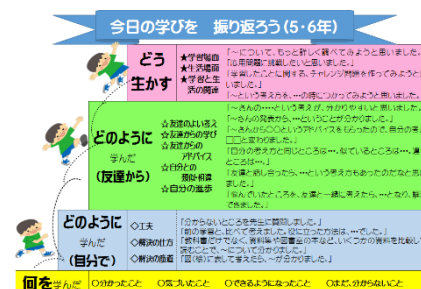
本校では、少人数での授業や活動が可能であり、教師と児童、また児童同士の密なコミュニケーションが図られやすい環境が整っている。このような環境は、児童が主体的に学び、協働する力を自然に身に付けるための絶好の機会を提供することになる。また、地域との連携を深めることで、児童が地域社会の一員としての自覚をもち、豊かな心を育むことが期待される。さらに、ICTの活用により、小規模校のデメリットを補い、教育の質をさらに向上させる効果も期待できる。遠隔合同授業やオンライン交流を通じて、協働学習を実現し、多様な価値観に触れる機会を提供することが可能である。

以上のことから、小規模校の特性を生かした教育活動を通じて、豊かな心を持ち、主体的・協働的に学ぶ児童の育成を目指すための具体的な取組について研究していくこととした。

(2) 実践の内容

① 全職員による指導体制づくり

- ・ 年度当初に「学習のやくそく」「学習過程スタンダード」「今日の学びを振り返ろう」等を活用して、指導者側の共通理解を図っている。
- ・ 各担任が、「目指す児童像」を明確化することで、「主体的・協働的に学ぶ児童」の姿を具体的に見取るようにしている。



【今日の学びを振り返ろう(5・6年)】

- ・ 授業の質の向上や児童を多面的に理解するために、小規模校に適した教科担任制の充実を図る。
- ② 学習活動の工夫
- ・ 児童が自らの学びのスタイルを確立するために、セルフチェックシート「目指せ！学び名人」を活用していく。
 - ・ 年間 12 回のファミリー班（縦割り班）活動を通して、高学年のリーダーシップを育成していくと共に、お互いに協力しあい、助け合う気持ちを育てていく。
- ③ ICT の活用（オンライン交流）
- ・ A L T の家族とオンラインでつなぎ、自分たちの将来の夢や日本の文化について紹介した。
 - ・ 東京都東久留米市の小学校とのオンライン交流を 2 学期に予定している。お互いの学校を紹介しあいながら交流を深めていきたいと考えている。
 - ・ 近隣小規模校とのオンライン交流を予定している。総合的な時間の授業での発表会等を合同で実施する予定である。
- ④ 地域との連携
- ・ 総合的な学習の時間に、地域特産の「十文字大根」を栽培し、漬物を作る活動を行っている。学校近くの畑をお借りして、地域の方々に御指導いただいている。
 - ・ 年間 20 回、3 年生以上を対象に木曜日の放課後、地域のボランティアによるステップアップ宮沢（放課後学習）を実施している。
 - ・ その他、地域合同の運動会の実施や関係団体主催の事業への積極的な参加を行っている。



【オンライン交流】



【十文字大根の収穫】

3 まとめと今後の課題

<まとめ>

本研究では、小規模校の特性を生かした教育活動を通じて、児童が豊かな心をもち、主体的かつ協働的に学ぶ力を育むことの重要性を改めて認識することができた。指導体制づくりや学習活動の工夫、地域との連携を強化する活動等が、児童の学習意欲や社会性の向上に寄与することが確認された。また、ICT の活用により、他の学校や様々な人たちとの交流を通じて、児童の学びの幅を広げることができた。さらに、縦割り班活動、グループ活動を積極的に取り入れることによって、児童同士の協力やコミュニケーションが深まり、豊かな心を育むことができたと考える。

<今後の課題>

- ・ 持続可能な取組の確立： 研究で得られた成果を持続可能な形で定着させるためには、教職員の継続的な研修やサポートが必要である。教職員の一人一人への負担をできるだけ減らす指導体制づくり、公平感のある組織づくり等の体制整備が求められる。
- ・ 地域とのさらなる連携強化： 地域社会との連携をさらに深めることで、児童が地域との接点を持ち、より豊かな心を育むことが期待される。地域の方々をゲストティーチャーとして招くなど、地域資源を活用した教育活動を推進することが必要であると考えられる。
- ・ ICT のさらなる活用： ICT を活用した教育活動を更に発展させることで、児童の学びの機会を広げることができる。特に、遠隔地の学校や専門家などとの交流を通じて、児童が多様な価値観に触れる機会を増やすことが重要であると考えられる。

《中学校班》

ふるさとのよさに気づき、主体的に活動する生徒の育成

～「自分と他者を尊重し、自ら考え行動する」地域学校協働活動を通して～

沼田市立利根中学校長 林 崇夫

1 学校の概要

本校の学区は、群馬県北部、四方を1,300mから1,400mの山々に囲まれ、町の80%以上を山林が占めている。町内には片品川をはじめとした大小の河川が流れ、河岸段丘を形成し、この河川沿いに集落が点在している。また、国天然記念物に指定されている吹割溪谷や川に沿って温泉街が広がる老神温泉、菌原湖やキャンプ場など、豊かな自然や観光資源に恵まれ、四季を通してたくさんの観光客が訪れる町である。

本校は利根町の追貝地区にあり、沼田市内中心地から北東へ20kmほど離れたところに位置している。昭和22年度に東村立東中学校として開校し、昭和31年度に利根村立利根東中学校、平成9年度に利根村立利根中学校となり、平成17年2月より現在に至っている。生徒数37名、特別支援学級を含め5学級のへき地小規模校である。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

学校教育目標に「高い知性と豊かな心をもち、心身ともに健康で、強く逞しく生きる生徒を育成する」を掲げ、その実現に向けて教職員一丸となって取り組んでいる。

生徒は、小学校から自然と親しむ学習や地域学習を積み重ね、地域のことを深く学び、地域を大切にしようとする心が育ってきている。現在も外部講師を地域の方々に依頼して、地域に根ざした教育活動を積極的に取り入れている。地域の方々は教育活動に協力的であり、専門性を発揮したゲストティーチャーとしての授業はふるさとのよさに気付くために大変効果的であることが、生徒の振り返りからもうかがえる。これまでの取組を振り返ってみると、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う活動が少なかったといえる。市支所の解体、デイサービスセンターの閉所等、地域コミュニティが縮小していく中で、子供たちが豊かな学びや体験の機会を得て健やかな成長を図ることとあわせて、地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える人材を育成する環境づくりが課題である。

以上のことから、「自分と他者を尊重し、自ら考え行動する」協働活動を通して、ふるさとのよさに気づき、誇りをもてるような学習活動を展開することで、生徒が主体的に自己のよさを発揮できるようになると考え、本主題を設定した。

(2) 実践の内容

① 学校運営協議会の開催

市では令和5年度より「地域とともにある学校づくり」を目指したコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を設置した。この会を基盤として、年3回の学校運営協議会を実施して目標やビジョンを共有し、学校と地域がパートナーとして連携・協働による取組を進め、地域と一体となって特色ある学校づくりを目指している。

② 地域おこし協力隊講話<全学年>

地域おこし協力隊員を招聘し、講話及び意見交換を行った。人生における大きな決断をして移住し、慣れない生活の中で地域協力活動に従事しようと思ったのか、仕事のやりがいや町の課題や魅力など、地域外から来た人ならではの視点での講話から、改めて町の良さや課題を捉える機会となった。

③ 総合的な学習の時間<全学年>

りんご農家に学ぶ(第1学年)、観光業に学ぶ(第2学年)、林業に学ぶ(第3学年)をテー

マとして、地域の大人との交流を通して、利根町でしか学べない貴重な体験を行い、楽しく探求しながら思いを型にする形に向けて取り組んでいる。

④ 生徒の主体的な活動

ア 生徒会旗作成：生徒会スローガン「繋～繋げみんなの絆、広がれ私たちの輪、永遠に続け利根中の未来」を掲げて、士気を高めながら活動の充実を目指している。

イ 生徒会新聞発行：生徒会から地域の方々へ町内の回覧板を利用して、学校と地域のつながりを大切にしていきたいメッセージを発信している。

ウ 能登被災地学校へ応援メッセージ：能登被災地での豪雨災害の記事に際して、生徒の発案により交流のある石川県東陽中学校へ応援メッセージを送付した。

エ 体育祭企画運営：地域とのつながりを意識した体育祭の実施に向けて、保護者や地域の方々と一緒に競技種目を多く取り入れ、休憩時間に地域の方々へ「カキ氷」を生徒が振る舞い、地域の方々との交流を図った。また、生徒会本部から保護者や地域の方々が集まる体育祭の機会に、「ふるさとを愛し、夢や誇りが持てる利根中学校」と染めぬかれたのぼり旗を掲げて自分たちの取組を知ってもらいたいとの声上がり、学校周辺の沿道にのぼり旗を立てた。

オ クリーン作戦：自分たちが地域にできることを実践したいとの生徒の声から、町の観光名所である吹割の滝周辺の清掃活動を全校生徒で行った。

⑤ 地域イベントの参加

ア びっくりひな飾りの準備<第1・2学年>：約7,000体以上のひな人形が並ぶ「老神温泉びっくりひな飾り」の開催を前に観光会館に行って飾り付けを手伝った。観光協会の方から「高齢化が進んで大変なので中学生が協力してくれるとありがたい。」という話を伺い、実施している。生徒が課題意識をもち参加できるよう、担当が事前の打ち合わせを綿密に行い、学校と地域が連携・協働した活動に向けて取り組んでいる。

イ 地域祭りへの参加<全学年>：5月に行われる老神温泉大蛇祭りに、令和7年度は全校生徒及び教職員で参加する予定である。その中で生徒は、ギネス世界記録に認定された108mの「大蛇みこし」の担ぎ手として、協力依頼を受けている。

3 まとめと今後の課題

- ・地域との協働活動を学校経営の核として、本年度の学校スローガンである「自分と他者を尊重し、自ら考え行動する～明るく、元気に、前向きに～」を掲げ、地域学校協働活動に取り組んできた。活動を通して、地域の方々が、学校を大切に思い、地域全体で子供たちを温かく見守っていただいていることを実感している。そのような環境の中で、生徒が地域課題を自分事として捉え、主体的な活動が少しずつ見られるようになってきた。さらに、活動において笑顔で取り組む生徒が増えたことは、自分の役割を自覚して達成感や自己有用感を高めている姿であると思う。
- ・全国学力学習状況調査の質問紙の中の「将来の夢がある」「人の役に立ちたい」の項目で、高い数値を示した。これは、地域課題に目を向けて真剣に取り組んだことにより、地域に愛着を感じ、将来の夢や希望をもって、地域や社会に貢献しようとする思いが育ってきている。
- ・利根町では、生活の利便性の低下、人口減少・流出や魅力的な働き場の不足など、大きな課題が山積している。学校と地域の方々が連携・協働しながら、子供たちの学びや成長につながる実践を継続していく。
- ・学校が意図的・計画的に地域学校協働活動に取り組んでいく中で、今後は生徒が自発的に地域の方々と関わりをもてるような姿が現れることを期待したい。地域を愛し、地域の担い手としての自覚が生まれてくるような機会の提供に継続して努めていく。

Ⅲ 第73回全国へき地教育研究大会（岡山大会）

〈1〉概要報告

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

嬭恋村立嬭恋中学校長 小池 裕生

第73回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、全国へき地教育研究連盟、岡山県教育委員会等の主催により、令和6年10月10日(木)～11日(金)の2日間にわたって吉備中央町にある岡山県総合教育センターを中心に開催された。本大会は、ここ数年継続している参集とオンラインによるハイブリッド型の大会となった。さらに本大会は、第9回中国・四国へき地教育研究大会岡山大会、令和6年度岡山県へき地・複式教育研究大会としての位置づけでもあった。群馬県からは理事長、副理事長、事務局長、研究部長の5名の校長と義務教育課指導主事の1名が岡山県での大会に参加した。この他に、オンラインでの参加者もいた。

◇大会前日(10月9日)「全国へき地教育研究連盟秋季総会」

令和6年度秋季総会が、10月9日(水)午後岡山県総合教育センターにて開催された。本年度より開始となっている全国第10次長期5か年研究推進計画への取組について確認がなされた。

◇大会第1日(10月10日)「全体会・分散会」

全体会開会式は、岡山大会実行委員長の開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者として、文部科学省初等中等教育局調査官、岡山県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長の挨拶があった。

基調報告では、まず前田道弘：全国へき地教育研究連盟研究部長から、全国第10次長期5か年研究推進計画1年次の概要説明があり、続いて榎野英一：岡山大会実行委員会研究部長から、岡山県の取組に関する報告がなされた。

記念講演は、演題「アートは場所を選ぶ？」と題して、(公財)福武教育文化振興財団の代表理事である松浦俊明氏と(公財)大原芸術財団の代表理事である大原あかね氏の講演があった。

記念講演終了後、次年度開催地である新潟県大会実行委員長の挨拶や大会旗の引継が行われ、全体会を終了した。

午後は、岡山県総合教育センターにて、全国第10次長期5か年研究推進計画研究課題別に課題1から課題6までの6つの分散会に分かれ、それぞれ2校(全国ブロック1校、中国・四国ブロック1校)の発表をもとに活発な研究協議が行われた。

◇大会第2日(10月11日)「授業公開・分科会」

2日目は、岡山県下5校園(A笠岡市立神島外小学校、B高梁市立富家小学校、C真庭市立川上小学校、D新見市立矢神小学校、E美咲町立旭学園)で授業が公開され、その後A～Eの5分科会で、開会式、各学校(地域)の研究発表及び研究協議、閉会式が行われた。

〈2〉分科会報告

A分科会

ふるさとを愛し ともに学び 挑戦する喜びにあふれた児童の育成

～地域とのつながりを柱にした実践を通して～

孺恋村立孺恋中学校長 小池 裕生

1 会場校 笠岡市立神島外小学校（学級数複式3 児童数24名 職員数10名）

2 地域・学校の概要

明治17年創立の神島外小学校は、眼下に広がる瀬戸内海では牡蠣や海苔の養殖が行われるなど、風光明媚な場所に立地している。平成27年以降は、笠岡市内の転入学特別入学制度の対象校となり、令和元年度以降は島しょ部からスクールボートを利用して通学する児童もいる。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- 「岡山型PBL」を取り入れた授業づくり
- 付けたい力と学びのゴールイメージの共有
- 少人数・小規模校の特性を生かした表現の場の設定

(2) 公開授業（参集型・オンライン型の同時開催）

- ① 1・2年複式 総合的な学習の時間
- ② 1・2年複式 生活科 及び 3・4年複式 総合的な学習の時間

4 所感

地域とのつながりを大切にし、その土地に住む人々の思いにふれる体験を柱とし、大人になってもふるさとを心に想いながら生きていくことを目指す取組が見られた。へき地学校が地域とどのように連携していくかを再認識するとともに、へき地校にとって豊かな自然や人々の温かさは当たり前であり、それを児童生徒に如何にして実感させていくか意見交換をすることができた。

B分科会

人とのつながりの中で、ふるさとに愛着をもち、 未来の創り手となる富家っ子の育成

～岡山型PBLの視点を取り入れたふるさと探求学習～

東吾妻町立坂上小学校長 関 幹彦

1 会場校 高梁市立富家小学校（学級数4 児童数24名 職員数11名）

2 地域・学校の概要

高梁市の西部、成羽川沿いの山間部に位置している。「学ぶ意欲と夢をもち、心豊かにたくましく歩む子の育成」を目指し、学校と保護者、地域が協働しながら教育活動を展開している。

3 研究の概要

(1) 研究内容

児童一人一人が、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら社会変化を乗り越えて持続可能な世界の創り手となるための力の基礎を身に付けることができるよう、岡山型PBLの視点を取り入れた課題解決学習を進める。

(2) 公開授業（参集、オンライン配信）3・4年複式と5・6年複式：総合的な学習の時間

4 所感

岡山型PBLは「自己決定の場を設ける」「振り返りを重視する」「地域の多様な人・もの・ことと関わる」及び非認知能力の育成を重視した課題解決型学習である。富家小では「ふるすとはひとである」を基本的な考えとし、子供たちが、地域の人と直接関わり、地域の課題や人々の思いや願いに気付き、自分事として課題を追求し、解決方法を考えていた。授業では地域の高齢者を招き話し合う場面を参観したが、子供たちを次代を担う地域の宝ととらえ、学校と地域が協働して成長を温かく見守ろうとする雰囲気強く感じさせる内容であった。

C分科会

児童が関わり合いながら、主体的に学ぼうとする授業づくり

みなかみ町立藤原小学校長 松原 孝志

1 会場校 真庭市立川上小学校（学級数 8 児童数 80 名 職員数 16 名）

2 地域・学校の概要

川上小学校の所在する真庭市は岡山県の北端、中国山地・蒜山（ひるぜん）高原に位置している。県内で「蒜山」の知名度は高く、児童がふるさとを誇りに思える土台となっている。令和3年度からコミュニティ・スクールとなり、地域・学校・家庭が協働して「蒜山大好き」な子供の育成を目指している。豊富な地域人材が児童の学習を支えている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

安心して過ごせる学級・協働できる環境を整え、児童をつないでいくことで、児童が関わり合っ

て主体的に課題解決していく授業づくりを目指す。

(2) 公開授業（参集型、オンライン型の同時開催）

1年：国語科 2年：生活科 3年：国語科 4年：総合的な学習の時間【オンライン配信】

5年：算数科 6年：算数科【オンライン配信】

4 所感

岡山大学大学院の佐藤暁教授も校内研究に参画して、「協同学習」による授業づくりを中心に研究を進めていた。公開授業では、先生方が児童一人一人の様子を丁寧に見取り、児童の学びを支えたことで、学級全体で学びを深めていた。若手職員が多い中でも、全ての学級で同様の指導がなされていた。また、めあての提示や振り返りの時間の確保など、基本とする指導も全ての学級で実施されていた。全職員の共通理解の下で研究を進めている様子を見ることができた。

D分科会

ともに学び合い 深め合う授業の創造

～思考力・判断力を育成する算数科の授業づくり～

神流町立中里中学校長 茂木 宏隆

1 会場校 新見市立矢神小学校（学級数 4 児童数 30 名 職員数 9 名）

2 地域・学校の概要

新見市は、伝統や文化、産業を学ぶ「ふるさと学習」、「ドローン」を利用したプログラミング学習、規範意識や思いやりの心、自己を高めようとする心を養う「論語教育」にも力を入れている。矢神小学校は、少子化・高齢化が進む中で、平成27年以降は複式学級を編制している。

3 研究の概要

(1) 研究内容

① 「自力解決前」と「集団解決前」の発問の明確化

② ガイドマン（学習の進行役）による授業の展開

③ ICT活用による授業の効率化とオンラインによる交流学习

(2) 公開授業 1年算数、2年算数【遠隔授業】、3・4年算数（複式）、5・6年算数（複式）

4 所感

「自力解決前」と「集団解決前」の発問について単元を通じた計画を立てることで、「何を考えるのか」「何について話し合うのか」といった児童の思考の流れと授業の展開を明確にし、児童同士の深い対話を実現されていた。また、学習の進行を児童に委ねる場面を設けることで、教師が授業を俯瞰し効果的・効率的な学習指導を行い、児童の学びへの意欲をより高めていた。1年生の時から学習方法を全校で統一して取り組み成果を挙げている点が素晴らしいと感じた。

E分科会

ふるさと旭を愛し、地域と共にグローバルな未来を創造する児童生徒の育成

～思考力・判断力・表現力等を育成する主体的・対話的な授業づくりを通して～

群馬県教育委員会義務教育課 高橋 博愛

1 会場校 美咲町立旭学園（学級数13名 児童数93名 職員数36名）

2 地域・学校の概要

美咲町旭地区は、岡山県のほぼ中心部、美咲町の西部に位置する。令和5年4月に岡山県初の義務教育学校として開校した。4－3－2制の学年区分を導入し、リーダー育成や教科担任制など、発達段階に応じた9年一貫教育に取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- 思考力・判断力・表現力等を育成する授業（「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくり）
- 郷土学習（地域課題の解決策を提案し、地域の活性化に貢献する学習）
- 英語教育（異なる文化を持つ他者とつながるコミュニケーションスキルの習得と自ら表現する意欲を育む教育）

(2) 公開授業

- 3年生：国語科「せつちやくざいの今と昔」
- 6年生：総合的な学習の時間「旭のよさや課題を考えよう」
- 8年生：総合的な学習の時間「旭に貢献しよう」（オンライン公開）
- 9年生：外国語「unit4 Be Prepared and Work Together」

4 所感

8年生の総合的な学習の時間では、地域の課題に対して生徒が地域の方々に解決策を提案し、地域の方々との活発な意見交換が行われていた。また、地域の方々の学校に対する関心や理解が高く、協力的・参画的な様子が随所に見られた。

資 料

I 令和6年度へき地学校資料

<1> 級別へき地学校数

令和6.5.1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	A計 分校	B県全体 分校	A/B
小学校	4	3	2	6	1	0	0	16 0	297 2	5.4%
中学校	2	1	3	4	0	0	0	10 0	149 1	6.7%
計	6	4	5	10	1	0	0	26 0	446 3	5.8%

<2> 級別へき地本校分校別学校数

〈()内は、内数で休校中の学校である。〉

令和6.5.1現在

級別 校種別		県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	小計	合計
小学校	本校	4	3	2	6	1	0	0	16	16
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校	本校	2	1	3	4	0	0	0	10	10
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<3> 級別へき地学校児童生徒数

令和6.5.1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	計 (A)	県全体 (B)	A/B
小学校	338	466	50	278	5	0	0	1,137	86,004	1.3%
中学校	108	93	284	112	0	0	0	597	45,820	1.3%
計	446	559	334	390	5	0	0	1,734	131,824	1.3%

＜4＞郡市町村別へき地学校数一覧

() 内は、内数で休校中の学校 上段：小学校 下段：中学校

令和6. 5. 1現在

No.	郡市	町村	学校数			内 訳								合計
			本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定						県 準		
						4	3	2	1	準	特		計	
1	高 崎		2		2				1	1		2		2
			1		1				1			1		1
2	安 中		1		1								1	1
3	多野	上 野	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
4	多野	神 流	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
計			2		2			2			2		2	
			2		2			2			2		2	
5		中之条	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
6		長野原	1		1				1			1		1
7	吾妻	孺 恋	2		2						1	1	1	2
			1		1					1		1		1
8	吾妻	草 津	1		1						1	1		1
			1		1					1		1		1
9	吾妻	高 山	1		1								1	1
			1		1								1	1
10	吾妻	東吾妻	1		1				1			1		1
計			7		7			3		2	5	2	7	
			4		4			1	1	1	3	1	4	
11	沼 田		1		1					1		1		1
			2		2					1		1	1	2
12		片 品	1		1						1	1		1
			1		1					1		1		1
13	利根	昭 和	1		1								1	1
14	利根	みなかみ	1		1			1				1		1
計			3		3			1		1	2	1	3	
			1		1				1		1		1	
総計	小 計		16	0(0)	16			1	6	2	3	12	4	16
			10	0(0)	10				4	3	1	8	2	10
	合 計			26	0(0)	26			1	10	5	4	20	6

＜5＞複式学級の郡市別、編成別、学級一覧（小学校のみ）

令和6. 5. 1現在

	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年	学級数計	学校数
高崎市	1	0	0	0	0	0	0	1	1
安中市	1	0	0	0	0	0	0	1	1
多野郡	1	0	1	0	1	0	0	3	1
吾妻郡	1	0	2	0	1	0	0	4	2
沼田市	1	0	1	0	0	0	0	2	1
利根郡	1	1	1	0	0	0	0	3	2
計	6	1	5	0	2	0	0	14	8

〈6〉級別へき地学校児童・生徒数の推移 (小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級		計(A)		県全体(B)		(A)/(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
昭50	6,992	3,741	898	506	1,039	294	1,678	433	108	56	29	0	10,744	5,030	160,642	73,952	6.7	6.8		
昭51	6,872	3,617	828	460	1,032	177	1,496	413	101	48	23	0	10,352	4,715	164,571	74,866	6.3	6.3		
昭52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	17	0	10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7		
昭53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0	9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6		
昭54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0	9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5		
昭55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0	9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0		
昭56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0	9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5		
昭57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0	9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4		
昭58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0	9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2		
昭59	6,161	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0	8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0		
昭60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0	8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9		
昭61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0	7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7		
昭62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0	7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6		
昭63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0	7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5		
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0	7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5		
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2	
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3	
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7	1	6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4	
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5	1	6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0	
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9	1	5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5	
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8	1	5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5	
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8	1	5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4	
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3	1	5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4	
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0	1	5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3	
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0	1	4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4	
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0	1	4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4	
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0	1	4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4	
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0	1	4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1	
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0	1	3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3	
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0	1	3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7	
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0	1	3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7	
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0	1	3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6	
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0	1	3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7	
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0	1	2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5	
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0	1	2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4	
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0	1	2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6	
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0	1	2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6	
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0	1	2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5	
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0	1	2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4	
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0	1	2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2	
平27	715	332	515	282	407	40	296	378	54	52	0	0	1	1,987	1,084	104,539	55,301	1.9	2.0	
平28	647	282	651	174	213	364	276	151	53	52	0	0	1	1,840	1,023	102,642	54,577	1.8	1.9	
平29	592	284	612	167	199	337	266	128	43	57	0	0	1	1,712	973	100,903	53,102	1.7	1.8	
平30	580	253	613	156	218	312	249	115	46	48	0	0	1	1,706	884	99,461	51,510	1.7	1.7	
令元	545	259	579	137	209	303	227	121	48	38	0	0	1	1,608	858	97,214	50,463	1.7	1.7	
令2	532	223	548	121	192	302	220	122	44	32	0	0	1	1,536	800	95,135	49,836	1.6	1.6	
令3	511	233	532	129	167	293	199	106	47	38	0	0	1	1,456	799	92,471	49,125	1.6	1.6	
令4	404	154	499	107	88	316	290	178	5	0	0	0	1	1,286	755	90,252	48,214	1.4	1.6	
令5	364	114	487	103	85	303	277	110	5	0	0	0	1	1,218	630	88,146	47,170	1.4	1.3	
令6	338	108	466	93	50	284	278	112	5	0	0	0	1	1,137	597	86,004	45,820	1.3	1.3	

II 令和6年度 群馬県へき地教育振興会役員

会 長 星野已喜雄 (沼田)

副会長 田村 利男 (多野：神流町長) 山口 暁夫 (吾妻：吾妻郡町村教育委員会
梅澤 志洋 (利根：片品村長) 連絡協議会会長)

理 事 小林 良江 (高崎：高崎市教育長) 岩崎 聡 (安中：安中市教育長)

山田 孝行 (多野：神流町教育長)

山口 暁夫 (吾妻：吾妻郡町村教育委員会 星野已喜雄 (沼田)
連絡協議会会長)

梅澤 志洋 (利根：片品村長)

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
高 崎 市		小 林 良 江 (教育長)
安 中 市		岩 崎 聡 (教育長)
多 野 郡	上 野 村	飯 出 哲 夫 (教育長)
	神 流 町	山 田 孝 行 (教育長)
吾 妻 郡	中 之 条 町	山 口 暁 夫 (教育長)
	長 野 原 町	小 林 敦 子 (教育長)
	嬭 恋 村	地 田 功 一 (教育長)
	草 津 町	富 澤 勝 一 (教育長)
	高 山 村	山 口 廣 (教育長)
	東 吾 妻 町	茂 木 一 弘 (教育長)
沼 田 市		竹 之 内 篤 (教育長)
利 根 郡	片 品 村	萩 原 明 富 (教育長)
	昭 和 村	小 野 和 好 (教育長)
	み な か み 町	田 村 義 和 (教育長)

監 事 富澤 勝一 (吾妻：草津町教育長) 萩原 明富 (利根：片品村教育長)

令和6年度へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事
事務局 書記・会計 神戸 恵美子 ・ 高橋 博愛 ・ 三好 玲子

市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
高 崎 市	高崎市教育委員会	藤 原 純 平	白 尾 亮 一 郎 (西部教育事務所)
安 中 市	安中市教育委員会	伊 田 悠 一	
上 野 村	上野村教育委員会	宮 澤 茂 寿	
神 流 町	神流町教育委員会	黒 澤 春 菜	
中 之 条 町	中之条町教育委員会	湯 浅 成 夫	佐 藤 俊 宏 (吾妻教育事務所)
長 野 原 町	長野原町教育委員会	浅 沼 伸 行	
嬭 恋 村	嬭恋村教育委員会	野 寺 秀 樹	
草 津 町	草津町教育委員会	山 口 智 栄	
高 山 村	高山村教育委員会	座 木 光 代	
東 吾 妻 町	東吾妻町教育委員会	桑 原 菜 緒	
沼 田 市	沼田市教育委員会	富 澤 誠 司	関 谷 良 子 (利根教育事務所)
片 品 村	片品村教育委員会	入 澤 達 郎	
昭 和 村	昭和村教育委員会	綿 貫 健 太	
み な か み 町	みなかみ町教育委員会	久 保 野 雅 之	

Ⅲ 令和6年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 関 幹彦 (吾妻：東吾妻町立坂上小学校)
- ・副理事長 茂木 宏隆 (多野：神流町立中里中学校)
- 土屋 学 (吾妻：長野原町立浅間小学校)
- ・常任理事 小高 哲茂 (安中：安中市立細野小学校)
- 小池 裕生 (吾妻：嬭恋村立嬭恋中学校)
- ・事務局長 松原 孝志 (利根：みなかみ町立藤原小学校)
- ・会計部長 宮田 好子 (沼田：沼田市立多那小・中学校)
- ・理事

アロク郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地 (電話番号)	県へき役職
高崎 安中 多野	茂木 宏隆	神流町立中里中学校	神流町大字神ヶ原422 (0274-58-2517)	常任理事 副理事長
	小高 哲茂	安中市立細野小学校	安中市松井田町新井365 (027-393-1322)	常任理事 図書新聞部長
	高橋 祐樹	高崎市立倉渕中学校	高崎市倉渕町岩氷215-1 (027-378-3214)	監査
	横谷 隆	高崎市立倉渕小学校	高崎市倉渕町権田314-1 (027-378-3218)	
吾妻	土屋 学	長野原町立浅間小学校	吾妻郡長野原町応桑1543-310 (0279-85-2249)	常任理事 副理事長
	小池 裕生	嬭恋村立嬭恋中学校	吾妻郡嬭恋村大笹1654-2 (0279-96-0009)	常任理事 研究部長
	塩野谷喜生	中之条町立六合中学校	吾妻郡中之条町生須543-1 (0279-95-3572)	監査
	水出 宣広	草津町立草津小学校	吾妻郡草津町草津3-1 (0279-88-2156)	
利根 沼田 吾妻	関 幹彦	東吾妻町立坂上小学校	東吾妻町大字本宿389 (0279-69-2005)	常任理事 理事長
	松原 孝志	みなかみ町立藤原小学校	みなかみ町藤原3491 (0278-75-2103)	常任理事 事務局長
	宮田 好子	沼田市立多那小・中学校	沼田市利根町多那732 小0278-53-2919 中0278-53-2698	常任理事 会計部長
	佐々木 孝	片品村立片品中学校	利根郡片品村大字鎌田4480 (0278-58-2019)	
板木 実務 担当	水出 宣広	草津町立草津小学校	吾妻郡草津町草津3-1 (0279-88-2156)	

Ⅳ 令和6年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏名	勤務先	勤務校所在地 (電話番号)
吾妻	山本 徳幸	吾妻教育事務所	〒377-0424 吾妻郡中之条町大字中之条町664 (0279-75-3370)
利根	中野 敬造	利根教育事務所	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

V 令和6年度へき地教育功労者

No.	氏名	該当する内規・功績の概要
1	宮崎 文江 (みやざき ふみえ) 中之条町教育委員会推薦	令和6年3月に中之条町立中之条小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	竹渕 和美 (たけぶち かずみ) 中之条町教育委員会推薦	令和6年3月に中之条町立六合中学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に23年10か月間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	本田 公子 (ほんだ きみこ) 長野原町教育委員会推薦	令和6年3月に長野原町立応桑小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	一場 民人 (いちば たみひと) 嬭恋村教育委員会推薦	令和6年3月に嬭恋村立西部小学校教頭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	丸橋 みはる (まるばし みはる) 高山村教育委員会推薦	令和6年3月に高山村立高山小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	小池 陽子 (こいけ ようこ) 東吾妻町教育委員会推薦	令和6年3月に東吾妻町立坂上小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第73集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を背景に発行を断念せざるを得ませんでした。しかしながら、令和3年度、第69・70集を発行し、令和4年度から刊行を重ね、今年度よりデータ配信にて第73集を発刊することができました。

第73回群馬県へき地教育研究大会は、今年度開校した長野原町立浅間小学校で開催しました。研究協議、学校公開、情報交換という半日の構成で、参集型により実施しました。研究協議では、宮沢小学校・利根中学校の実践が紹介され、へき地における学校経営について学び合うことができました。学校公開の授業参観では、少人数での学習の在り方について考えを深める貴重な機会となりました。情報交換の場面では、次年度の全国へき地新潟大会への参加や令和9年度関ブロ群馬大会の概略・発表校等についての協議も行いました。各校の教育実践の参考にしていただければ幸いです。へき地教育の推進を図っていく一方で、児童生徒数の減少傾向が止まず、へき地校の状況は厳しさを増すばかりですが、みなで力を合わせ、へき地教育を支えていければと考えます。

今年度も、へき地教育に携わる多くの方々から、原稿執筆や編集等のご協力をいただき、無事にへき地教育の記録を残すことができました。心からお礼申し上げます。完成した「板木」第73集が、今後のへき地教育推進の資料として、より多くの方々に活用されることを願っております。

なお、「板木」作成に携わった編集委員は、以下のとおりです。

群馬県教育委員会事務局

酒井 暁彦（義務教育課長）

土屋 真美（義務教育課 人権・キャリア教育推進係長）

神戸恵美子（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事）

高橋 博愛（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事・板木担当）

群馬県へき地教育研究連盟

関 幹彦（県へき連 常任理事・理事長）

茂木 宏隆（県へき連 常任理事・副理事長）

土屋 学（県へき連 常任理事・副理事長）

松原 孝志（県へき連 常任理事・事務局長・調査部長）

宮田 好子（県へき連 常任理事・会計部長・研究部）

小高 哲茂（県へき連 常任理事・図書新聞部長・広報）

小池 裕生（県へき連 常任理事・研究部長）

高橋 祐樹（県へき連 理事 ・研究部・監査）

横谷 隆（県へき連 理事 ・調査部）

佐々木 孝（県へき連 理事 ・図書新聞部）

塩野谷喜生（県へき連 理事 ・図書新聞部）

水出 宣広（県へき連 理事 ・研究部・板木担当）

